

“ 自らの二本の足でしっかり大地に立とう ”

熊本県地域結集型共同研究事業 研究統括

東北大学未来科学技術共同研究センター 客員教授 大見忠弘

国や自治体、中央の大企業に“あれをしてくれ、これをしてくれ”と依存するのではなく、たとえ地方の小さな企業であっても自らの事業目標を明確にし、その事業目標を実現するために必要なすべての新技術創出を、自らやり遂げようとする強い意志を持つことが、すべてに優先して重要である。もちろん、スピードがすべてに優先して重要な時代であるから、自分達の能力では実現不可能な新技術創出に対しては大学や他の企業との連携を自らの意思で即座に決断実行することが求められる。

上記指摘事項の中でもっとも難しいのが、事業目標の決定である。どういった技術、部品、材料、施工技術、システム等を創れば、どういった産業分野でどのように有効なのかを判断できるのは、将来のあるべき理想の技術体系を予見・洞察する能力を備えたごく少数の大学人に限られる場合が多い。自社の有する得意技術をすべて開示して、将来の理想の技術体系を読める人の指導を受けることが重要である。

地方の企業の場合には、最終ユーザに提供する最終の商品・システムをすべて自社で作上げられる例は少ない。たとえそうであっても、世界中に対する強い販売網やメンテナンス網を構築することは難しい。世界中に強力な販売網・メンテナンス網を持つ強い企業との連携が必須となる。最終の商品・システムに使用される一部の技術や部材を提供する企業の場合には、世界で勝ち続ける技術力・経営力・販売力・サービス力を備えた最終商品・システムを作る強い企業との連携が必須である。

目標は、売上高・利益を最大にすることにある。

地方におけるプロジェクト成功の要件として、筆者は、プロジェクトリーダーはその地方と縁の無い人を据えることが必要と、一貫して主張している。地方であればあるほど地縁・血縁が濃い。どんなに優れた人、リーダーも急に立派になるわけではない。若い時から、多勢の人達の恩恵、指導、支援を受けて人は育つ。“今回、国から多額の研究費が来たのだから苦境にある自分達の仕事にも研究開発費を出してほしい”と恩を受けた先輩達から依頼されたら、通常は断れるものではない。われもわれもとそうした人達が周囲に集り、結果としてばらまきになってプロジェクトは失敗する。研究費は必要不可欠な課題にだけ集中して投入しなければ、プロジェクトは成功しない。プロジェクトが成功しなければ、誰も幸せになれない。プロジェクト遂行中は一部の限定された企業や組織にだけ資金は投入され、一見不公平に見えるかもしれないが、プロジェクトが成功して成果が事業化され強い産業、強い企業が育てば、その恩恵は広く周辺に及び、多くの人々が幸せになる。それこそが、国家プロジェクトの目標であり、地方を活性化するのである。

どんな目標もすぐには達成されない。すぐできてしまうような目標であれば、誰にでもできることであるため優位差をもたらさない。目標実現に必要なすべての新技術を創出するには、徹底的かつ集中的な努力を傾注しても、ある年月は必要である。その期間、周囲は邪魔をしないで待つことが重要である。